

もくぞうやくしによらいざぞう
「木造薬師如来坐像」

町指定有形文化財（彫刻）

所在地：大字上平 所有者：天田薬師保存会 指定：昭和56年7月9日

この像は檜材の寄木造りで、螺髪は彫出し、肉髻朱・白毫は水晶（但し白毫欠失）、玉眼を嵌入し、頭部を首柄で軀部に接合し、内剝を施しています。衲衣は通肩、両肘をまげ、左手を膝上に仰げて薬壺を捧持しています（薬壺は欠失）。右手は施無畏を印し、左足を内に右足を外にして結跏趺坐しています。螺髪はやや小粒でよく整い、髪際わずかに波形を呈し、面貌が引きしまり、胸から腹部へかけてよく締まり、衣文もやや煩瑣ですが彫り深く稜高い。面相にやや硬さがあり像高に比して膝張りが少し足りないなど、銘文はありませんが、室町時代中頃の制作と考えられます。台座及び光背は後補です。

この薬師如来は天田薬師ともよばれ、郷人の信仰も篤く、病気の平癒、雨乞い等の祈願がなされてきたものです。元禄10年（1697）丑閏2月の松代藩堂宮改帳、上平の項に「薬師堂、同所（小野沢）之内、少之堂有」と書き上げられています。昭和57年10月に保存会を中心として、郷人の手により新たに御堂が建立されました。解体された御堂の棟札の表に「信陽更級郡庄内庄村上郷、冠木里上平惣村中」と墨書があり、裏面には天保10年（1839）に再建された日付がありました。

法量 像高 54.0 cm

頂～顎 18.0 cm	髪際～顎 11.0 cm	面幅 10.7 cm	面奥 13.3 cm
肩張り 23.7 cm	胸厚 15.3 cm	肘張り 33.0 cm	膝張り 43.0 cm
坐奥 36.0 cm			

